

# 魅力発信！えひめ農業NOW

令和3年9月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、9月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

魅力発信！えひめ農業NOW(9月)

局・支局	室・拠点	No.	標 題	頁
東予	地域	1	農業所得の向上を目指して「農業実用講座」開催	1
東予	地域	2	売れる商品に！！「旬菜ボックス」パッケージをリニューアル	2
東予	四中	3	さといも「伊予美人」を試験掘り！今年産の収量・品質は良好！！	3
東予	四中	4	「知産地消みらいプロジェクト推進研修会」にて、さといも「伊予美人」をPR！！	3
東予	四中	5	四国中央市土居町上野地区、サルの監視・調査を強化中	4
東予	四中	6	優良茶園を次世代へ残したい！茶園調査をスタート	4
東予	四中	7	さといも疫病が集落防除で大幅に抑制	5
東予	産地	8	「さくらひめ」の生産者が初めて育苗に取り組む	6
東予	産地	9	花木の挿し木時期を迎え講習会を開催	6
今治	地域	10	今治地域の青年農業者が農業用ドローンについて学ぶ	7
今治	地域	11	今治農業女子、かんきつ栽培技術と経営について学ぶ	7
今治	地域	12	「甘平」の裂果対策実証ほ(調査中間報告)	8
今治	地域	13	加害ニホンザルの捕獲強化に向けて研修会を開催	8
今治	しまなみ	14	夏季レモンの実需者評価の実施	9
今治	しまなみ	15	新型通電ネットによるイノシシ等獣害対策の実証始まる	9
今治	産地	16	オリーブ商品の魅力発信で販路開拓	10
中予	地域	17	樹園地整備に係る営農施設整備計画の検討を進める	11
中予	地域	18	いちご「紅い雫」高収益モデル実証ほを設置	11
中予	地域	19	中予地域の令和4年産小麦の状況	11
中予	地域	20	中島の青年農業者が地元の匠に栽培のポイントを学ぶ	12
中予	地域	21	農作業受託システムを活用し、新たな作業で契約成立	13
中予	地域	22	米の調製作業で2事業所と契約。農福+αな関係の構築を	13
中予	伊予	23	砥部町で生活研究組織の知事表彰伝達式と意見交換会開催	14
中予	伊予	24	管内集落営農組織でさといもの収量調査・指導を実施	14
中予	久万	25	トマト部会青年部が現地研修会を実施	15
中予	産地	26	新規生産者を対象に「さくらひめ」自家育苗講習会を開催	16
南予	地域	27	水田における水位・水温の24時間モニタリング実証を開始	17
南予	地域	28	宇和島市三間町の2地区で集落営農組織が法人化	18
南予	地域	29	宇和島管内のいちご高品質安定生産に向けて	18
南予	地域	30	レシピ動画で宇和島市津島町の郷土料理を継承	19
南予	地域	31	さといもの生育調査を実施	19
南予	地域	32	三間町新規就農者や葉師谷地区農業者が「鳥獣被害対策」を学ぶ	20
南予	地域	33	和菓子原料市田柿の安定出荷に向け目合わせ会を開催	20
南予	鬼北	34	鬼北町の「田わわ家」が「ひめの凜」を使った商品を開発！	21
南予	鬼北	35	多収米品種「にじのきらめき」の穂いもち病発生状況を調査	22
南予	愛南	36	「根こぶ病」軽減対策実証ほでブロッコリーを定植	23
南予	産地	37	新たな河内晩柑加工品の試作品検討会を開催	24
南予	産地	38	うめ園地の土壌診断に基づく改善指導を実施	24
八幡浜	地域	39	夏季の気象変動に応じた温州みかんの高品質生産対策を実施	25
八幡浜	地域	40	温州みかん収穫期に向けて、農道沿いに設置されたトイレへの案内板を設置	25
八幡浜	地域	41	AI選果機の拠点整備により、情報発信や普及に向けた取組を強化	26
八幡浜	地域	42	地域の担い手が元気を発信！八西農業者フォーラムを開催	26
八幡浜	地域	43	八幡浜の園地から全国の就農希望者へえひめ農業を紹介	27
八幡浜	地域	44	グローバルGAP認証に向け、内部検査を実施	27
八幡浜	地域	45	青年農業者の先端技術に関する情報収集活動を支援	28
八幡浜	地域	46	南予ブロック青年農業者リーダー研修会を開催！	28
八幡浜	大洲	47	新規就農者を個別巡回、農業経営を指導	29
八幡浜	大洲	48	被害を避け！防護柵の管理や捕獲技術を学ぶ	29
八幡浜	大洲	49	シャインマスカットの冬季出荷に向けて	30
八幡浜	大洲	50	イノシシ被害対策強化に向け地元猟友会と連携	31
八幡浜	西予	51	西予市三瓶町蔵貫集落で農事組合法人設立	32
八幡浜	西予	52	「ひめの凜」のプレミアムクオリティ率向上に向けて	32
八幡浜	産地	53	南予マルシェ出店者のおススメ商品をカタログ販売	33
八幡浜	産地	54	南予の逸品を紹介！「冷蔵シャインマスカット」をPR	34
農産園芸	高度普及	55	県有数の観光施設で県育成品種「紅い雫」、「さくらひめ」の栽培実証がスタート	35
農産園芸	高度普及	56	新規導入品目しょうがの収穫がスタート	36
農産園芸	高度普及	57	「さくらひめ」の需要期出荷に向けたリモート研修会を開催	37
農産園芸	高度普及	58	「甘平」裂果対策の実証経過について普及拠点へのリモート配信を開始	38
農産園芸	高度普及	59	かんきつ基盤整備ほ場における緑肥作物の生育確認とほ場へのすき込みを実施	39

## 東予地方局 地域農業育成室

### ■農業所得の向上を目指して「農業実用講座」開催

- 地域農業育成室は、西条地区認定農業者等連絡協議会と共催で、9月27、28日に農業所得の向上等を目的に、農業経営や土づくりの基礎知識について学ぶ農業実用講座を開催。認定農業者や青年農業者、新規就農者、女性農業者35人が熱心に受講した。
- 当室職員が、「農作業は準備と後始末、栽培管理は生育に合わせた管理、経営管理は記録と記帳が一番重要」と、心構えや各論について講義した。
- 講座の中で、新規就農者からの質問に対して、認定農業者が自分の体験談を交えて回答するなど、活発な意見交換につながった。
- また、参加者アンケートからは農業経営や土づくりの応用編についても講座の開催要望があり関心が高いことから、当室は、引き続き担い手の早期自立に向けた支援を行う。



当室職員が講師となり説明



熱心に受講する参加者

## ■売れる商品に！！「旬菜ボックス」パッケージをリニューアル

- 一次産業女子組織「たべとうみん」は、メンバーが生産する農畜産物を詰め合わせた「旬菜ボックス」の販売を令和2年4月から開始し、SNSを活用した情報発信やふるさと納税返礼品への掲載等に取り組んでいるが、新規顧客開拓に苦慮している。
- そこで、地域農業育成室では「コロナ禍での売れる商品づくりプロジェクト（農産園芸課所管）」を活用し、梱包用段ボールの改良と購入者へのアンケート調査を実施するよう指導した。
- 梱包用段ボールは、既に作成しているPRパンフレットのデザインと統一感を持たせたものへ、また、アンケート調査は新規顧客獲得と合わせリピーター確保に繋がる内容も盛り込んだものとした。
- 当室は、今後、アンケート調査の結果をもとに、「売れる商品づくり」に向けた取組を支援する。



改良した梱包用段ボール



詰め合わせた農畜産物

回答者様についてお答え下さい

年 代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
世帯人数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上		
性 別	女性		男性					

- 商品をご存知でしたか  
 SNS チラシ 知り合いから その他( )
- たべとうみんの旬菜ボックスを購入した決めたは何ですか？  
生活者の数が多くなる 新鮮 価格 野菜の種類の多さ 健康効果 その他( )
- たべとうみんの旬菜ボックスの購入は初めてですか？  
初めて 2回目以上  
 2回目以上の方に回答します。購入頻度はどのくらいですか？  
毎週 隔週 月1回 季節ごと その他( )
- 商品の満足度はどうですか？  
満足 やや満足 やや不満足 不満足  
 ※やや不満足/不満足の方は何が不満でしたか。( )
- どのくらいの期間で使い切りましたか？  
2日 3日 4日 5日 6日 7日以上
- 普段どんなお野菜をよく使いますか。  
 また、入っていたら嬉しい野菜はありますか。( )
- 今後、定期購入したいと思いましたか？  
したい したくない ※理由( )
- 旬菜ボックスについてご意見、ご要望があればお聞かせ下さい。  
 ( )  
 ※事前に宛先、お名前、お住所がわかるように記入し、今後の商品づくりなどに活かさせていただきます。

購入者へのアンケート

## 東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班

### ■ さといも「伊予美人」を試験掘り！今年産の収量・品質は良好！！

- 四国中央農業指導班は9月9日、寒川農業振興会(会長：宝利義博)及びJAうまと連携し、さといも「伊予美人」の収量・品質を確認するため試験掘りを実施した。
- 会員12人が個数や重さ、秀品率等を調査した結果、平均収量が4,500 kg/10a(昨年比124%)、平均秀品率が35%(昨年比114%)と良好であった。
- 今年度は空梅雨による初期生育の遅延、その後の長雨や台風の影響を受けるなど、非常に栽培しにくい年であったが、当班やJAが疫病やかん排水対策等について指導した結果、農家の適切な栽培管理により安定した生産となった。
- 会員は、「長雨などで芋の肥大が遅れているのではないかと心配していたが、出来栄えが良く、苦労した甲斐があった」と笑顔で話していた。
- また、当班が実演を行った手動式簡易芋分離機は、分割作業の省力化につながると、会員の関心を集めていた。
- なお、令和3年産のさといも「伊予美人」は9月10日から出荷を開始している。



会員によるさといも分別作業



手動式芋分割機の実演

### ■ 「知産地消みらいプロジェクト推進研修会」にて、さといも「伊予美人」をPR！！

- 四国中央農業指導班は9月10日、「知産地消みらいプロジェクト推進研修会(県ブランド推進課主催)」において、生産者による四国中央市特産のさといものPR活動を支援した。
- 同研修会は、県内の栄養教諭や学校栄養職員、JA、直売所、市町学校給食担当を対象に、県内生産者の取組や学校給食事例発表を通じた地域の食育活動の推進を目的として、リモート会議形式で開催された。
- 研修会では、JAうま特産部会長の宝利義博氏が、さといも「伊予美人」の特徴に加え、収穫・分割作業等の動画を交えて産地を紹介した。
- 併せて、「伊予美人」の出荷が9月10日から始まることを紹介し、学校給食で使ってもらえるようPRした。



リモート会議の様子



紹介動画の一場面

## ■四国中央市土居町上野地区、サル監視・調査を強化中

- 四国中央農業指導班は9月1日、四国中央市土居町上野地区の農業者グループと協力して、同地区内に4台のセンサーカメラを設置し、サルの行動調査を開始した。
- これは「えひめ地域鳥獣管理専門員総合育成事業」の一環で、サルの生態や移動経路を把握し被害対策を進めるため、データ収集を行うもの。
- 今後、当班では調査結果を解析し地元農業者グループと情報を共有するとともに、8月に導入した簡易箱わなの移設も視野に被害対策を検討することとしており、地域への鳥獣害対策に係る情報発信と指導を行う。



設置したセンサーカメラの様子



センサーカメラに映ったサルの群れ

## ■優良茶園を次世代へ残したい！茶園調査をスタート

- 四国中央農業指導班が茶産地の振興のために参画しているうま茶振興協議会（事務局：四国中央市農業振興課）は9月14日、第1回の生産部会を開催した。
- 生産部会では、生産者の高齢化と後継者不足によって、毎年、茶園の耕作放棄が進み、生産量が低下していることを危惧して、優良茶園を次世代へ残そうと、まずは生産の実態把握を行うことで合意。その調査について日程や内容、方法を協議した。
- 調査は、農業委員を担う茶業農家が確認した農地を基に茶園を地図化して、茶の栽培面積と栽培管理の状態を客観的に評価することとした。
- 当班は、茶園の実態把握を通して茶優良園地の再編を提案したところ、立枯株や老木の茶樹の改植と労働力の確保に係る意見があり、課題として継続協議となった。
- 併せて、事務局から同協議会販売部会活動として、秋冬のブレンド茶「熟成茶」の商品化と敬老会へ1,300袋を販売した旨の報告があり、令和4年産の新茶に焦点を当てて、愛称（現在、商標登録申請中）でブレンド茶を発表したい考えを示した。
- 今後、当班は、同市農業振興課とともに、優良茶園と人材の確保に係る生産振興のための活動を支援し、ブレンド茶の販売促進につながるPR活動とお茶の消費拡大を進める。



第1回生産部会 熱心な議論が交わされる



秋冬ブレンド茶「熟成茶」 敬老会で好評

## ■ さといも疫病が集落防除で大幅に抑制

- 四国中央農業指導班は、平成 27 年に県内で初めて発病が確認されたさといも疫病について、平成 28 年から四国中央市の関係機関や団体、青果業者と連携し、防除対策に取り組んでいる。
- 本年は、「さといも疫病防除対策情報【さといも疫病防除体系モデル】」を集落生産者全 18 戸に配布し、集落ぐるみでの体系防除に取り組んだ。
- その結果、8 月 27 日現在で市内の疫病発生面積は 89ha（発生率 53.9%）であったが、モデル集落では、集落内の疫病発生時期が 8 月 22 日（市内疫病初発：7 月 20 日）、発病程度は「少」と、大幅に抑えることができた。
- なお、疫病発生が抑制された要因は次の 4 点。①予防・初発後散布日の統一、②集落生産者間の情報共有と防除意識の高揚、③登録農薬の効果発揮、④初発後、J A と青果業者が DM・メールで体系防除を推進。



防除体系モデルに基づく予防散布

※さといも疫病防除体系モデル：地域の初発前は予防散布し、初発（7 月 20 日）後は、予防・治療のための薬剤散布を行う防除体系

## 東予地方局 産地戦略推進室

### ■「さくらひめ」の生産者が初めて育苗に取り組む

- 産地戦略推進室は、9月13日に西条第二庁舎で「さくらひめ」自家育苗講習会を開催し、半促成栽培を行う生産者4人（3戸）が出席した。
- 当室から播種のポイントとして、均一な培土の入れ方や播種床へのくぼみのつけ方、種のおとし方等の作業を説明したあと、生産者は手順どおりに作業を行った。
- 播種したセルトレイは生産者が持ち帰り、かん水や施肥等の育苗管理を行い、約60日後の11月上旬に定植予定。
- 生産者からは、セルトレイの設置場所やかん水方法等の質問があり、良質苗生産への意欲がうかがわれた。



さくらひめの播種作業

### ■花木の挿し木時期を迎え講習会を開催

- 産地戦略推進室は、9月28日に西条市の母樹園で挿し木講習会を開催し、今治市及び四国中央市の育苗農家のほか農協、丹原高校、花き研究指導室等18人が出席した。
- これは、局予算事業「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」における優良苗供給体制を確立するため、母樹園で育成しているピットスポラム、ビブルナム・ティナス、メラレウカを用いて挿し木の実演・実習を行い、挿し穂の調整など技術の高度化を図ったもの。
- あわせて、新たに導入した品種の生育や斑入り状況等の特徴を確認し、参加者一同、普及に期待を示した。
- 今後は、挿し穂の発根率向上のため、温度やかん水等の育苗管理指導を行うこととしている。



挿し木実習



■今治地域の青年農業者が農業用ドローンについて学ぶ

- 地域農業育成室は9月13日、青年農業者の要望に応じ、「農業用ドローン研修会」を開催し、青年農業者等11人が参加した。
- 当日は、農業用ドローンのオペレータ教習を行っている今治市内の企業から講師を招き、水稲防除での効果的な活用方法やセンシングによるスポット肥料散布などの最新の技術等について研修した。
- また、水田でドローンの模擬農薬散布を実施し、参加者からは、バッテリーの持続時間や操作技術の取得等について質問が多く出され、関心の高さがうかがえた。
- 当室は、引き続き青年農業者等の要望に基づいた講座を展開し、次代の担い手の農業技術向上を目指す。



農業用ドローンについて学ぶ



園地でドローン航行を見学



■今治農業女子、かんきつ栽培技術と経営について学ぶ

- 地域農業育成室は9月15日、新メンバー1人が加わった今治農業女子6人を対象にかんきつの栽培技術と経営管理について学ぶ経営支援講座を開催した。同講座は、定期的で開催しており、今回が3回目（前回7月26日、8月24日）。
- 講座では、各メンバーが品種ごとの売上状況と今後（5年後）の売上目標を決め、その目標の実現に向け、普及指導員が早期成園化のための苗木管理や収益性の高い品種への転換等について助言するなど、具体的な改善方法について話し合った。
- 当室は、今後も引き続き講座を開催し、メンバー間の園地巡回や意見交換を通して学びを深めることで各々の栽培技術の向上を図り、儲かる農業の実現を支援する。



売上目標を達成するため、具体的な改善点について学ぶ

## ■「甘平」の裂果対策実証ほ(調査中間報告)

- 地域農業育成室では、「甘平」の裂果軽減技術を検証する実証ほを設け、定期的に裂果率の調査を実施している。9月21日時点での実証ほの裂果率は、乾きやすい真砂土土壌の基盤整備ほ場で42%、土壌水分の高い水田ほ場で32%と、昨年同時期に調査した裂果率74%と比べ大幅に少なくなっている。
- 裂果が少ない要因は、昨年よりかん水チューブを増やすとともに多頻度かん水を行ったことと、8、9月の平年を超える降雨量により土壌が過度に乾燥せず、水分変動も小さかったためと考えられる。
- また、同実証ほでは土壌水分センサーを設置しており、水分変動を数値化し、技術を見える化することで、「甘平」の裂果を軽減するための水管理指導に役立てるとともに、今治市上浦地区で進めている再編復旧園での栽培方法を検討する参考データとして提供する予定である。



「甘平」裂果調査



土壌水分センサー調査

## ■加害ニホンザルの捕獲強化に向けて研修会を開催

- 地域農業育成室は9月21日、今治市と協力して、今治猟友会員17人を対象にニホンザルの捕獲技術を高めるための講習会を開催した。
- 今治地域では、近年、ニホンザルによる農作物被害が増加しており、加害レベルの高い群の捕獲活動を進めているところ。
- 当日は、講師に株式会社野生鳥獣対策連携センターの阿部豪氏を招き、「ニホンザル被害対策(被害防除・捕獲方法)」について、集落の状況に応じた防護と捕獲、追払い方法等を研修した。
- 特に、群が移動する際に頻繁に利用するルートの確認方法のほか、捕獲檻や寄り付きやすい餌の設置方法など、現場で役立つ実践的な対策技術の指導を受けた。
- 今後、当室は、捕獲効率を高めるため、現地確認やセンサーカメラによる痕跡、侵入経路等の調査結果を捕獲実践に取り組む猟友会員へ情報提供し活動を支援することとしている。



講演の様子



檻の設置方法について学ぶ



群れの行動ルート、痕跡を学ぶ

## 東予地方局今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班

### ■夏季レモンの実需者評価の実施

- しまなみ農業指導班では、局予算事業で取り組んでいる夏季レモンの実需者評価について、コロナ禍で消費地に赴くことができないため、サンプルの送付によるアンケート調査を実施した。
- 県大阪事務所、JA おちいまばりと連携し、9月7日から随時、関西や関東地域の飲食店、仲卸業社7社にレモンサンプルと合わせてアンケート用紙を送付した。
- アンケートの結果、外観や品質は概ね良好であり、取引したいとの意見が多くあったほか、飲食店からは価格と入手方法、卸業者からは計画的な出荷への要望が寄せられた。
- 当班は引き続き、アンケート協力業者への調査を継続し、結果については、生産者や関係機関と情報共有し、生産対策や流通体制整備に生かしていく。



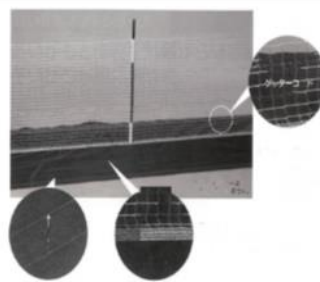
レモンサンプルとアンケート用紙

### ■新型通電ネットによるイノシシ等獣害対策の実証始まる

- しまなみ農業指導班は9月6日、今治市伯方町伊方地区のかんきつ園地に、「鳥獣害防止新技術等実証展示事業」の一環で、通電ネット（商品名：マルチEネット）を設置し、イノシシ等加害獣の侵入防止対策実証を開始した。
- 当日は、今治市、JAおちいまばり、地域農業育成室、地元関係者等12人が参加し、100mの敷設作業を約2時間で終え、実証農家からは、「敷設作業も容易で、管理作業時の園地への出入りも簡単。侵入防止効果を期待したい」との意見があった。
- 当班は、今後、同地区での集落点検活動（10月予定）時に、地元住民へ本実証の取組状況を紹介するとともに、実証成果を基に侵入防止対策を進める。



参加者へ普及指導員が作業手順を説明



導入したマルチEネット

マルチEネット：電気ネットとマイナス（アース）付きシート（防草シート）が一体となった、小動物からイノシシまでを対象とする侵入防止通電ネット（ネット高55cm、ネット内に4段の電線 50m一巻）

## 東予地方局今治支局 産地戦略推進室

### ■オリーブ商品の魅力発信で販路開拓

- 産地戦略推進室は9月21日、局予算事業「しまなみ産オリーブ特産化促進事業（令和1～3年度）」の一環で、大都市圏の飲食店に向けたオリーブ商品のPRを目的として、生産と加工を行うポパイズクラブとブランド戦略課の3者で、「定期便カタログ」の掲載内容を協議した。
- 「定期便カタログ」は、「えひめ食材販路拡大定期便事業」の一環で実施される取組で、しまなみ産のオリーブは11月号に掲載予定であり、間もなく収穫開始となるオリーブの塩漬けとオリーブオイルをセットにして提案する。
- 協議では、栽培の苦勞や商品のアピールポイント等を話し合い、「オイルは収穫後24時間以内に搾油を実施する」ことや「しまなみ産純度100%」へのこだわりをカタログに掲載することになった。



カタログ掲載の打ち合わせ（生産者ほ場にて）

## 中予地方局 地域農業育成室

### ■樹園地整備に係る営農施設整備計画の検討を進める

- 地域農業育成室は、下難波地区等樹園地整備における営農施設等の導入を進めるため、県、市、JAの営農関係実務担当者間での検討を行っており、これまでに3回の会合を開催した。
- この会合は、6月に開催した「松山地区災害復興・樹園地整備ワーキングチーム会」で確認した全体の整備計画のうち営農施設整備の具体化のために県が招集している。
- 9月3日に開催した会合では、実務担当者8人が出席し、工事の進捗状況や耕作予定者の意向を参考に生産現場の状況に合った営農施設の導入時期等についての検討を行った。
- 検討結果は、10月下旬に開催を予定しているワーキングチーム会で報告し、工事関係機関と情報共有するなどして実務担当者による話し合いを重ね、順調な営農の開始を目指す。

### ■いちご「紅い雫」高収益モデル実証ほを設置

- 地域農業育成室は9月9日、いちごの収益性向上を図り技術普及を進めるため、東温市にいちご「紅い雫」高収益モデル実証ほを設置した。
- このモデル園では、定植直後の温度上昇を抑え、第2果房の花芽分化を促進するため、寒冷紗被覆・細霧冷房を行うとともに、いちご定植後の活着促進を目的に発根促進剤の処理をした。
- 今後は、収量・品質向上のため、地中暖房や炭酸ガス日中施用を行い、モデル園の実証成果を普及し、生産者の所得向上を目指す。



定植前に寒冷紗を被覆

### ■中予地域の令和4年産小麦の状況

- 中予地域では管内のJAが中心となり、関係機関が連携して新規品目の小麦に取り組むこととなり、実需者の要望で「シロガネコムギ」300tの契約が結ばれた。
- 裸麦より収穫が遅く穂発芽しやすいなど栽培が難しい品種で、農家を含めた関係者の中で、栽培や技術指導を行った経験がほとんどないことから取組には不安の声が大きかった。
- このため、地域農業育成室では品種特性や他県での栽培状況、中予地域で栽培した場合の収穫適期予測など栽培に向けての情報収集や資料作成を行い、関係者に提供するとともに農家説明会、講習会などの技術指導で不安の払しょくを図り栽培を推進してきた。
- これにより約93haで栽培される見込みとなり、必要な量を確保できる目途がついた。
- 当室では今後、契約達成を目指し、作業適期の判断など専門的な技術支援を行っていく。

## ■中島の青年農業者が地元の匠に栽培のポイントを学ぶ

- 地域農業育成室は9月22日、中島青年農業者15人を対象に「地元の匠（篤農家）に学ぶ」と題して、「甘平」と「愛媛果試第28号」の栽培技術を学ぶ研修会を開催した。
- 「甘平」栽培の匠は、連年で反収を3 t近く上げており、「6月の早期に奇形果やヘソあり果を摘果する」、「6月以降降雨がなければ3日に1回かん水する」などのポイントを学んだ。
- 施設「愛媛果試第28号」栽培の匠は、中島で最初に栽培に取り組んだ1人で、栽培技術が手探りの中で苦労話や2～4本の主枝を作る開心自然形の仕立て方や夏芽の処理方法などを学んだ。
- 青年農業者のうち3人が今秋、施設を建設中で、質問等も積極的に行われ、有意義な研修会であった。
- 当室は、次回2月に青年農業者を対象に研修会を行い、栽培技術の習得に向けて今後も支援していく。



「甘平」栽培の匠から栽培のポイントを学ぶ  
青年農業者



施設「愛媛果試第28号」栽培の匠から栽培の  
ポイントを学ぶ青年農業者

## ■農作業受託システムを活用し、新たな作業で契約成立

- 地域農業育成室では、農業者と福祉事業所との農福連携を推進しており、農作業体験マッチング支援やJAを窓口とした「農福連携農作業受委託システム」作りを行っている。
- 昨年度、同システムを利用した農家が、今年度新たにいちごのポットの土入れ作業、ブルーベリーの収穫・園地片付け・草引き作業、すだちの袋詰め作業等で新たに契約を結んだ。
- 福祉事業所関係者からは、「継続しての仕事依頼は利用者の自信につながる」「農家での作業を楽しみにしている利用者が多い」、生産者からは「一生懸命働いてくれるので助かる」「他にも委託できる作業がないか検討したい」などの感想があった。
- 当室は、今後も関係機関及び福祉事業所と連携し、労働力確保と障がい者の就労機会創出につなげていく。



ブルーベリーの収穫作業



すだちの袋詰め作業

## ■米の調製作業で2事業所と契約。農福+αな関係の構築を

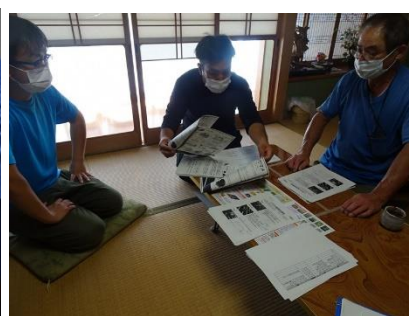
- 地域農業育成室では9月9日及び15日、農福連携ビジネス推進事業を活用し、管内の米農家と福祉事業所で米の調製作業（精米後の米の中から着色米などの異物の取り出し）の農作業体験マッチング（スタッフ計6人、利用者計10人参加）を行い、新規に2事業所と契約に至った。
- マッチング後、両者にアンケートを実施したところ、農家からは「利用者は真面目で作業が丁寧で助かる」と満足しており、事業所からは「説明も分かりやすかった。年間通じて仕事があり、外で作業できない利用者のために大変ありがたい依頼である」との感想が聞けた。
- また農家の好意により、利用者とのもちつきでの交流の話や、事業所内の農園の土作りのためにもみ殻や米ぬかの無償提供の話、「田んぼを貸し、耕運なども手伝うので米や野菜を施設でも栽培してみないか」との提案があるなど良好な関係が構築されている。
- 当室は、今後も障がい者の携わった農産物の栽培指導や販路確保について支援をしていく。



農作業体験マッチング



農家からのアドバイス



提案されたソラマメ栽培の打合せ

## 中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班

### ■砥部町で生活研究組織の知事表彰伝達式と意見交換会開催

- 伊予農業指導班は9月15日、長年の積極的な地域貢献活動により優良農山漁村生活研究組織知事表彰を受賞した「ひろたふきのとう」への表彰状伝達式に併せて、中予地方局農林水産振興部長と会員の意見交換会を開催した。
- 当日は、部長が砥部町高市にある組織の加工所「ぶう〜ふう〜う工房」を訪問し、向井会長に表彰状を授与した後、会員4人と役場職員、普及関係者が意見交換を行った。
- 参加した会員から、これまでの起業活動や食育活動等のほか、コロナ禍で直売活動に苦慮している現状、新しく計画している民泊や田舎体験活動について報告し、部長から「今後も、その笑顔と行動力で地域を元気にしてほしい」と激励した。



知事表彰を受賞した生活研究組織  
「ひろたふきのとう」

### ■管内集落営農組織でさといもの収量調査・指導を実施

- 伊予農業指導班は9月21日、農林水産研究所と連携し、管内集落営農組織のさといも（「愛媛農試V2号」）ほ場を巡回し、試し掘りによる収量調査を実施した。
- さといもの栽培面積は、管内の集落営農組織だけでも2haを超え、地域の基幹作物になりつつあるなか、栽培経験が2、3年の生産者も多く、継続的な指導を行っている。
- 今回、試験区のさといもを掘り取り、子芋・孫芋の数量・重量を測定したところ、予想収量は10aあたり約3～5トンとなった。
- 昨年よりも予想収量は向上しているが、ほ場により生育の差が見られることから、今後の水管理や病害虫対策に加え、翌年作における種芋の重量や品質の徹底、定植時の深さなども併せて指導した。
- 当班では、今回の調査結果を関係者間で共有し、栽培技術向上に努めるとともに、11月及び来年1月にも、掘り取りによる収量調査を予定している。



試し掘りによる子芋、孫芋の状況確認



## 中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班

### ■トマト部会青年部が現地研修会を実施

- 久万高原農業指導班は9月22日、JA松山市トマト部会青年部(会員34人)を対象に現地研修会を行い、16人が参加した。
- 始めに、受粉のためのクロマルハナバチを導入している会員のは場で、巣箱の設置状況やハチの管理方法などを見学した。会員からはハチの働く時間帯や移動方法、更新のタイミングなどについて質問があった。
- は場見学後は座学での学習会を実施し、斜め誘引による栽培方法について当班職員が事前に撮影した動画を映しながら意見交換を行った。
- また、当班技術普及グループが品種比較試験をしている4品種のトマトについて、ブラインド方式で食べ比べを行い、果実の形や食味の違いを確かめた。
- 管内の若いトマト生産者はIターン者が多く、労働力が单身及び夫婦のため農繁期に作業が遅れる場合があり、いかに生産性を上げるかが課題となっている。
- 当班では、トマト部会青年部と連携して、作業の省力化及び多収に向けた新たな取組について今後も検討し、トマト部会全体の底上げを目指す。



ハチの設置状況を見学



座学で意見交換をする会員ら

## 中予地方局 産地戦略推進室

### ■新規生産者を対象に「さくらひめ」自家育苗講習会を開催

○産地戦略推進室は9月15日、新たにさくらひめの栽培を始める生産者5人（切り花1戸、鉢物2戸）を対象に、花き研究指導室と連携して、生産技術の基礎を学ぶ「自家育苗講習会」を開催した。

○講習会では、花き研究指導室から、は種時の注意点や育苗中の施肥管理のポイント等の説明後、実際に育苗トレイへのは種作業を行った。参加者からは「初めてののは種作業は、大変参考になった」「今後の施肥やかん水管理もしっかりしたい」と意欲的な声が聞かれた。

○今回は種したトレイは各自で持ち帰り管理することとしており、当室では引き続き、花き研究指導室と連携しながら、先ずは、11月上旬の定植に向けて定期的な巡回指導を行い、自家育苗による切り花の需要期（3月）出荷及び鉢物の高品質生産を図る。



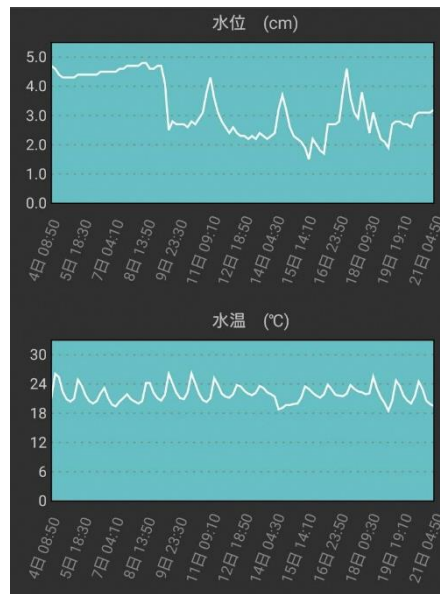
は種準備作業を体験する新規生産者

■水田における水位・水温の24時間モニタリング実証を開始

- 地域農業育成室は8月30日、水位と水温を24時間モニタリングできる水管理センサーを宇和島市三間町の水田に設置した。
- これは、稲作の大規模化に伴い数多くの水田の水管理に時間を要することや、水量調整などは農業者の感覚に頼っていることから、センサーが感知する水位や水温の情報をスマートフォンで確認し、集積したデータに基づく適切な水田管理を検証するため、メーカーの協力を得て実証しているもの。
- 9月8日にメーカーの担当者を交え現地確認したところ、農業者からは「水田に行く手間が省けて大変助かる」「集積したデータを今後の管理に役立てたい」等の意見があった。
- 当室では、引き続き水管理センサーのモニタリングを実証し、省力化、高品質生産の一手法としての普及性を確認する。



機材の設置



水田情報のモニタリング

## ■宇和島市三間町の2地区で集落営農組織が法人化

- 地域農業育成室は、農地集積による儲かる水田農業を推進する一環で集落営農の法人化をサポートしているが、今般、次のとおり宇和島市三間町黒川、是能の2地区で農事組合法人の設立総会が開催された。
  - ・ 9月10日：「農事組合法人黒川」（構成員16人、経営面積7ha）
  - ・ 9月12日：「農事組合法人これよし」（構成員31人、経営面積20ha）
- 当室では5年前から、担い手不足と高齢化に悩む両地区での意向調査を踏まえ、数多くの協議の場において、集落の合意形成や営農ビジョン作成など農業者への指導を展開してきた。
- 今後、両地区とも補助事業を活用した農地基盤整備に取り組むこととしており、当室では「ひめの凜」やさといもなどの導入や経営管理指導等を通じ、集落の担い手の経営の安定発展をサポートしていく。



黒川地区の設立総会



是能地区の設立総会

## ■宇和島管内のいちご高品質安定生産に向けて

- 地域農業育成室は、いちごの高品質安定生産に向け、宇和島管内のJA出荷者のほか、直売や観光農園を営む生産者25人で構成する「宇和島地区いちご研究連絡協議会」の事務局を担い、総合的かつ一体的な指導を展開している。
- 9月10、15、21日は、定植適期を指導するため11人分の苗の花芽検鏡を実施。今年は概ね順調に花芽分化しているものの、分化速度にばらつきのある苗もあったことから、定植後の生育に注意するよう指導した。
- 当室は、今後も天敵を活用した害虫管理の実証や厳寒期における収量・品質向上に向けた栽培環境調査等を行うとともに、講習会や巡回指導を通して、いちごの高品質安定生産を支援する。



顕微鏡を使った花芽検鏡

## ■レシピ動画で宇和島市津島町の郷土料理を継承

- 地域農業育成室は9月13日、えひめ食農教育推進事業における「えひめ食文化保存継承活動」の一環として、宇和島市生活研究協議会会員6人と津島町の郷土料理「六宝(ろっぽう)」のレシピ動画を撮影した。
- 今後、動画を編集したうえで、愛媛県農山漁村生活研究協議会 YouTube チャンネルで広くPRしていく予定で、参加者からは「若い世代に宇和島の味を継承していけるよう、様々な手段で情報発信していきたい」などの声があった。
- 当室は今後も、地元の児童を対象とした食文化普及講座等を通して、宇和島の食文化の普及・継承を進めていく。



調理動画の撮影



完成した六宝と会員

※六宝：宇和海でとれた活きの良い鯛を、しょうゆ、みりん、酒、砂糖、ごま、生卵の6つの宝（調味料）に漬け込み、ご飯の上のせて食す宇和島市津島町の郷土料理

## ■さといもの生育調査を実施

- 地域農業育成室は9月17日、JAえひめ南、農林水産研究所と連携し、管内10ほ場のさといもの地下部の生育状況を調査した。
- 今回の調査は、8月に草丈、茎数、葉の大きさなどの地上部を調査した株を掘り取り、親・子・孫芋の個数や秀品率を確認。
- 今後は11月まで定期的に調査を行い、地上部の生育や栽培管理の違いが収量・品質に与える影響を検証し、関係機関と協議のうえ、次年度の技術対策として生産者へ提示する予定。
- 当室は、今後も関係機関と連携しながら、さといもの産地づくりを通じて儲かる水田農業の実現を図る。



掘り取ったさといもの個数などを調査

### ■三間町新規就農者や薬師谷地区農業者が「鳥獣被害対策」を学ぶ

- 地域農業育成室は、えひめ地域鳥獣管理専門員を目指す普及指導員が中心となって、宇和島管内の鳥獣被害防止に向けた取組を進めている。
- 9月22日は、宇和島市三間町の新規就農者ら11人を対象に、加害鳥獣の正確な判別をするため、被害の多いイノシシ、ハクビシン、カラスの被害や痕跡の特徴を室内で解説した後、現地で、ワイヤーメッシュ柵と電気柵設置時の基本のポイントと、イノシシ対策で有効な「忍び返し」や「スカート」等のコツについて実習指導した。
- 9月30日は、宇和島市薬師谷地区の農業者5人を対象にワイヤーメッシュ柵の設置方法について研修会を開催。特に農業者から要望のあった、園内の傾斜や段差のある地点での設置方法について重点的に指導した。
- 当室では引き続き、えひめ地域鳥獣管理専門員総合育成事業を通じた、集落での見回り活動や猟友会と連携した捕獲活動を実施し、管内の鳥獣被害軽減に取り組む。



三間町で防護柵設置について実習指導



傾斜、段差部分の設置について指導

※忍び返し：ワイヤーメッシュ柵の上部20～30cmを30°程度外側に折り曲げ、イノシシの飛び込みを防ぐ  
※スカート：L字に折り曲げたワイヤーメッシュ柵を張ることで、イノシシの潜り込みを防ぐ

### ■和菓子原料市田柿の安定出荷に向け目合わせ会を開催

- 地域農業育成室は9月30日、JAえひめ南と連携して宇和島市柿原及び三間町で市田柿の出荷目合わせ会を開催し、新たに見直した出荷基準に基づいて、一つでも多くの果実が出荷できるよう呼びかけた。
- 宇和島市では、長野県が原産の市田柿の産地化に取り組んでいるが、これまで高温による着色不良や果頂部の過熟が問題となり、出荷ロスが生じていた。そこで、当室も構成員である「源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」で出荷基準の見直しを協議し、着色基準の緩和や出荷形態の簡素化(大型コンテナへの変更等)を決定し、生産者が出荷しやすい環境を整えた。
- 生産者からは「収穫時の手間も省け、今まで出荷できなかったものも出荷できるようになってありがたい」との声が聞かれた。
- 当室では、収穫前防除など着果状況に応じた個別指導を行い、安定出荷につなげる。



着色基準の説明



出荷目合わせ会

## 南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班

### ■鬼北町の「田わわ家」が「ひめの凧」を使った商品を開発！

- 鬼北農業指導班は、農業の6次産業化支援を進めているが、この度、鬼北町の(株)あう農園の加工部門「田わわ家」が自社生産の米を使用した団子を商品化した。
- これは、同社が生産した県オリジナル品種「ひめの凧」を加工したもので、商品名を「鬼のまちのお米団子」とし、9月21日の中秋の名月に合わせ、道の駅「広見森の三角ぼうし」で試験販売した。
- 当班ではこれまで、商品化に向けた研究会を通じ、品種選定や配合割合などを協議するとともに、消費者が購入しやすい量や価格などを調査したうえで、パッケージも手にとりやすいものを採用する等アドバイスし、同社が4カ月の試作期間を経て商品化した。
- 販売当日は、用意した30パックが販売開始から3時間で完売するほどの人気で、購入者からは「もちもちして美味しい！」と好評。また「あんこ味はありませんか？」という問い合わせもあり、今後の商品開発の参考とし、バリエーションも増やしていく予定。
- 当班では、より良い商品となるよう引き続きサポートするとともに、管内の農業者の6次産業化を支援し、農業経営の安定・発展を図る。



新商品販売に取り組む田わわ家



「ひめの凧」で作った“お米団子”

## ■多収米品種「にじのきらめき」の穂いもち病発生状況を調査

- 鬼北農業指導班は9月7日、JA全農えひめと連携し、管内で試験的に栽培されている多収米品種「にじのきらめき」の穂いもち病の発生状況を調査した。
- この品種は、食味が良く、標準の施肥栽培で「コシヒカリ」に比べ15%程度の多収が見込める品種であるが、南予の降水量の多い地域では穂いもち病による減収が懸念される。
- そこで、管内で栽培されている「コシヒカリ」や「あきたこまち」と穂いもち病の発生状況を比較した結果、達観ではあるが「にじのきらめき」では発生が少なかった。後日、生産者に収量を聞き取りしたところ、490kg/10a程度の収量があり、穂いもちによる減収は見られなかったとの意見であった。
- 今後、当班では生産者、JA全農えひめ、県関係機関と連携を取りながら、生産の方向性を検討する。



収穫前の「にじのきらめき」



穂いもち病で穂の枯死が見られるほ場（「コシヒカリ」）



## 南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班

### ■「根こぶ病」軽減対策実証ほ場でブロッコリーを定植

- 愛南農業指導班は一部の連作ほ場で問題となっているブロッコリー難防除病害「根こぶ病」の被害軽減に向け、関係機関と連携して対策に取り組んでいる。
- 昨年度から設置している実証ほでは、8月下旬におとり作物のソルガムをすき込んだ後、1月間の熟成期間をおいて、9月27日に同病に耐病性のある「緑竜」、「クリーンキャンノ」の2品種を定植した。
- 当班では、これまでの調査結果に加え、土壌の菌密度や定植後の病害発生状況などを収穫が終了する1月まで継続的に調査し、データを取りまとめ、講習会等で栽培指導に活用していく。



ハンマーナイフモアでソルガムを細断



耐病性品種を定植

※おとり植物：土壌中の菌密度を低減するために栽培される作物

「根こぶ病」では、感染しても発病しないエンバク、ソルガム等を栽培する

## 南予地方局 産地戦略推進室

### ■新たな河内晩柑加工品の試作品検討会を開催

- 産地戦略推進室は、河内晩柑の新たな用途開拓に向け、県食品産業技術センターと連携し、河内晩柑を用いた新たな加工品開発に取り組んでおり、現在開発中の試作品について9月8日に愛南町農業支援センターで試食、検討会を実施。
- 食品産業技術センターから提供のあった「河内晩柑グミ」、「ピクルス」、「ゼリー」など5品について試食を実施した結果、「グミは食感が面白く味も良い。こちらでも試作を検討したい」、「ピクルスの酢は寿司に合うのでは」等の意見が出された。
- 愛南町内では、現在、加工品開発が可能な設備を有する事業者が限られていることから、今年度は試作品を作製してレシピを飲食店等へ提供し、料理や菓子の素材等として活用することも検討しており、当室では引き続き関係機関や飲食店等と連携し、商品化に向けたブラッシュアップと絞り込みを進める。



河内晩柑加工品の試作品の試食



【試作品】 河内晩柑グミ(左)、ピクルス(右)

### ■うめ園地の土壌診断に基づく改善指導を実施

- 産地戦略推進室及び鬼北農業指導班は9月17日、「松野町梅振興会」と連携して夏季管理講習会を開催し、今年7月に実施した土壌分析結果のほか、夏季せん定のポイントや主要病害の対策等について説明した。
- 産地全体を対象とした土壌分析は今回が初めてであり、土壌管理が不十分な園地ではpH 4.5～5.0程度と土壌の酸性化が進行していることを確認。これらの園地では収量が低い傾向が見られたため、石灰質資材の施用による土壌改良の必要性を指導。併せて、ECや硝酸態窒素含量に基づく適正施肥の考え方についても説明した。
- 特に酸性化が進んでいた園地の生産者からは、「早速、今年から土壌改良に取り組みたい」との話があった。
- 松野町のうめ栽培では、近年、着果不良や樹勢の低下等により生産量が不安定であることが課題となっており、当室は今後も安定生産に向けた技術指導を徹底していくこととしている。



土壌管理や夏季せん定のポイントを指導

## 南予地方局八幡浜支局 地域農業育成室

### ■夏季の気象変動に応じた温州みかんの高品質生産対策を実施

- 地域農業育成室は、今年の夏秋季の気象要因により発生が多かった日焼け果対策として、当面の栽培管理資料を作成し、JAと連携して農家に配布、栽培管理指導を徹底した。
- 今年は梅雨入りが特に早く、曇天が多い傾向であったが、8月中旬の冷夏長雨の後、下旬から9月上旬の天候回復を受けて日焼け果が多発し、これらの果実に炭疽病が多く発生している。一部農家では、この病害が他の果実うつることを心配し、被害果を除去する動きがみられた。
- 一方で、被害果は樹冠上部に発生が多く、これらを急ぎ除去すると秋芽が発生し、着果負担もかからず品質向上の妨げになるばかりか、翌年の着花不足が懸念されている。
- 当室では現在、仕上げ摘果講習会や各種会合で資料を配布・説明し、日焼け果除去を遅らせ、品質向上に取り組むよう指導している。



樹上の温州みかん日焼け果



高品質生産対策資料

### ■温州みかん収穫期に向けて、農道沿いに設置されたトイレへの案内板を設置

- 地域農業育成室は、川上地区において青年農業者のプロジェクト活動（労働環境改善対策）を支援しており、その活動の一環として、9月16日に農道沿いに設置されているトイレまでの案内板を設置した。
- 同地区では、温州みかん収穫期の雇用者対策として、園地トイレが補助事業等により8箇所設置されているが、みかんアルバイト等へのアンケート調査では、農道が複雑に入り組んでいるため、トイレの場所がわかりにくいという声が多かった。
- このため、令和元年度から3年間をかけ案内板を主要農道に43枚設置し、農道に出れば近くのトイレに行くことができる環境に整備した。
- 当室では今後も青年農業者と連携し、トイレの側面にペンキで絵を描き、目立つ工夫を行うなど、みかんアルバイト等も安心できる産地づくりを目指す。



設置したトイレへの案内板

## ■ A I 選果機の拠点整備により、情報発信や普及に向けた取組を強化

○地域農業育成室はスマート農業技術を農業者に広くPRするため、八幡浜市保内町の倉庫に移転設置されたA I 選果機の今後の実装・普及に向けた取組について、9月17、22日に、農林水産研究所、JAにしようわ、ベンダー企業の(株)NPシステム開発と検討を行った。

○同倉庫は、同社が、床のフローリングや天窓設置等による改修工事を行い、9月3日にA I 選果機を移転設置し、農業者が見て触ることができる拠点として整備したもの。

○検討会では同倉庫を活用し、農業者を対象としたみかん選果実証セミナーを10月に開催することや、A I 選果機の紹介動画を撮影し、八西CATVによる情報発信を計画した。また、広く青年農業者や農業女子を対象とした研修会も開催する予定で、スマート農業技術の情報発信や普及に向けた取組を強化していくことを申し合わせた。



A I 選果機を移転設置した拠点

## ■地域の担い手が元気を発信！八西農業者フォーラムを開催

○地域農業育成室は9月21日、八西地区農業者4組織（八西地区認定農業者等協議会・八西地区青年農業者連絡協議会・八西生活研究協議会・八西地区家族経営協定ネットワーク推進協議会）と共催して、「八西地区の担い手から地域の元気を発信!!」をテーマに、八西農業者フォーラムを開催。

○当フォーラムは、毎年、4組織の交流や元気な農業・農村づくりの推進を目的として実施しているが、今年はコロナ感染対策に配慮し、各組織代表者ら少人数で開催。

○当日は各組織から、将来の経営発展を見据えた6次産業化やGAPの取組、新規就農者による家族経営協定締結や労働力確保に向けた作業環境整備等の事例など、日頃の活動や会員の優良経営事例を発表。

○また、産地戦略推進室から地域特産かんきつ「川田温州」の産地化について情報提供し、新規栽培者の掘り起こしに努めた。

○なお、フォーラムの様子は参加できなかった会員も視聴できるよう、地元八西CATVが収録し、後日放映することとしている。



フォーラムの様子は収録しCATVで放映

## ■八幡浜の園地から全国の就農希望者へえひめ農業を紹介

- 地域農業育成室は新規就農者確保を進める一環で9月23日、「オンライン農業体験ツアー in えひめ 2021」に八幡浜市高野地地区の農業女子とともに参加した。
- 当日は、全国から愛媛県への移住就農に関心のある女性13人が参加する中、地元農業女子等が、八幡浜市高野地地区の紹介や農業を始めた動機、営農状況、6次産業化の取組等を紹介した。
- 交流会では、八幡浜の農業女子のみかんジュースやマーマレードを食しながら、就農支援策や有機農業への取組み等、就農に当たっての疑問等になごやかな雰囲気で見聞交換した。
- 当室では農業女子の活動支援を行うとともに、県外からの就農希望者への積極的な働きかけを行う。



園地から情報発信



全国の参加者とオンラインで交流

## ■グローバルGAP認証に向け、内部検査を実施

- 地域農業育成室及び産地戦略推進室は9月24日、農産園芸課と連携し(株)ニューズのグローバルGAP認証審査に向けた事前の内部検査を実施した。
- 内部審査では、200以上の項目について、書類と現地検査を行い、適切な管理が行われていることを確認し、今後実施する水質、残留農薬検査についても指導していくこととしている。
- なお、認証審査は11月4日に実施予定で、当室では引き続き、農業者へGAP取得に係る啓発及び指導助言、情報提供などに努める。



倉庫の管理状況の現地検査

## ■青年農業者の先端技術に関する情報収集活動を支援

- 地域農業育成室は9月27日、八西地区青年農業者連絡協議会会員10人を対象に、みかん研究所でかんきつ生産における先端技術の視察研修を行った。
- 青年農業者は、研究員から県が育成した新品種「愛媛果試第48号」(紅プリンセス)の品種特性や栽培上の留意点の説明を受けるとともに、ほ場で若木の生育と着果状況を視察。「寒害を受けるリスクがあるが、産地条件は」「目標とするサイズ、適正な着果量はどの程度か」など質問が出された。
- また、労力軽減を目的に開発されたアシストスーツの作業性を体感し、その実用性や購入価格等について意見交換を行った。
- 当研修は、青年農林漁業者ステップアップ活動支援事業の一環として実施したもので、当室では、青年農業者の情報収集活動支援を通して先端技術の導入による経営発展に努める。



「愛媛果試第48号」(紅プリンセス)を視察



アシストスーツの作業性を体感

## ■南予ブロック青年農業者リーダー研修会を開催！

- 地域農業育成室は9月29日、八西地区青年農業者連絡協議会と共催で、南予ブロック青年農業者リーダー研修会を開催し、12人が参加した。
- 当研修会は、青年農業者が次代の担い手として、地域振興に貢献するための優れた識見を身に付け、南予各地区協議会会員が交流を図ることにより、農業者組織の強化を図ることを目的に毎年実施しているもの。
- (株)ミヤモトオレンジガーデンのGAPの取組の講演や、当室で実証試験を行っている気象ロボットやマルドリなど、スマート農業技術の現地研修の他、各地区協議会の今年度の活動状況等の情報交換を行った。
- 参加者からは「GAP取得のメリットはあるのか」、「スマート農業導入にかかる経費は」などの質問が出された。
- 当室では、今後も南予地域の青年農業者の交流機会を通して各協議会活動の活性化を図るとともに、個々の経営発展と資質向上に努める。



GAP講演及び情報交換



スマート農業の現地視察

## 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班

### ■新規就農者を個別巡回、農業経営を指導

- 大洲農業指導班は9月7～9日、大洲市で就農後概ね5年以内の経営体13戸（農業次世代人材投資事業の交付対象者）に対し、営農状況の確認と経営指導を行った。
- これは不安を多く抱える新規就農者のフォローを担う大洲市新規就農サポートチーム（当班、大洲市、JA愛媛たいき）の活動の一環で、各経営体のほ場を確認しながら、農地や設備、生産販売状況などについて聞き取り、それぞれの課題や今後の方向性に対して相談・指導を実施したもの。
- 新規就農者からは、農業経営の安定化へ向けた意欲が強く感じられた一方で、天候による生産への影響、コロナ禍等による生産物単価の下落、労働力などに関する悩みも聞かれる中、チームからは安定生産に向けた技術指導や販売に関するアドバイス、補助事業の紹介など各経営体の状況に応じた助言を行った。
- 当班は、就農者が安定した農業経営を実現し、地域農業の担い手として活躍できるよう、引き続き関係機関と連携しながら、経営や栽培管理の指導を通じた支援を行っていく。



新規就農者から経営状況の聞き取りをするサポートチーム

### ■被害を防げ！防護柵の管理や捕獲技術を学ぶ

- 大洲農業指導班は9月13日、大洲市森山荒平地区で獣害防止を目的とした防護柵（ワイヤーメッシュ）の維持管理についての研修会を実施した。
- 同地区は、今年度の鳥獣害防止対策の重点地区（防護柵3,050m設置予定）で、研修会には農家をはじめ大洲喜多猟友会、大洲市、地域おこし協力隊、県の関係者に加え、鳥獣害対策の専門家（株）野生鳥獣対策連携センター）の計15人が参加。
- 既に設置済みの防護柵を巡回し、効果的な補強の方法や見回り時のポイント、防護効果を向上させるための電気柵との併用など、専門家のアドバイスを受けながら確認した。また、捕獲が必要な場合の効果的な餌付けの方法についても学んだ。
- 当班は、センサーカメラの映像や現地見回りの状況を農家や猟友会と共有し、捕獲を含めた対策強化を進め、集落ぐるみの鳥獣害防止への取組を支援していく。



撮影した動画を紹介し対策意識を高める



同地区で撮影したイノシシ

## ■シャインマスカットの冬季出荷に向けて

- 大洲農業指導班は9月15、22日、生産部会やJA愛媛たいきと連携し、冬季出荷用シャインマスカットの品質確認と鮮度保持処理を実施した。
- お歳暮需要のある12月の贈答用高級商品としての販売を拡大し、産地力向上を目指す取組で、約3ヶ月に及ぶ冷蔵保存期間中の品質低下を防ぐため、これまでに鮮度保持効果が実証されているフレッシュホルダーを用いた処理を行った。
- 園地で房の形や大きさ、粒の形や状態の良いものを選別して収穫し、選果場で各房を再度検品して重量を計測、水中で果軸を切断した上でフレッシュホルダーを装着、貯蔵。
- 冬季出荷用に処理したシャインマスカットは約1,600房で、12月まで冷蔵保存したのち再度検品し出荷される予定。
- 当班では作業コストや流通経費などのシミュレーションを行い、冬季販売の優位性や所得向上効果を検証するとともに、冬季出荷への取組拡大を進めていく。



園地で房の状況を確認



フレッシュホルダー装着の状態



## ■イノシシ被害対策強化に向け地元猟友会と連携

- 大洲農業指導班では、内子町や内山猟友会と連携した鳥獣害対策の一環として、ICTを活用した遠隔操作可能な罠の捕獲実証を行っている。
- 同罠は、平成28年以降約40頭の捕獲実績をあげているが、今年度の捕獲実績はない。当班は9月17日、現地で猟友会関係者に周辺の捕獲状況などの聞き取りを行い、原因究明や対応協議を行った。
- 猟友会によると、周辺の捕獲数は昨年の半分ほどで、田畑への被害も少ないという。内子町全体では昨年、1,858頭（一昨年の約1.8倍）のイノシシが捕獲されており、捕獲圧向上による個体数の減少が原因の1つとして推測され、捕獲による被害防止効果が表れている一方で、同罠は仕掛けも大きいため存在をイノシシに学習されることや、天候が悪いと機器の通信不良が起こることも捕獲に至らない要因と見られる。
- なお、熟練ハンターが栗園周辺などに設置しているくくり罠では、4月以降約10頭の捕獲実績をあげていることから、未だ多数生息する有害獣に対し、罠の実証を含めた農地への被害対策は必要だと考えられる。当班では、より効果的な捕獲方法の検討も含め、関係機関と連携しながら鳥獣害対策に取り組んでいく。



ICTわなについて現地での聞き取り



熟練者のくくり罠での捕獲（雌 推定40kg）

## 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班

### ■西予市三瓶町蔵貫集落で農事組合法人設立

- 西予市三瓶町蔵貫集落は9月16日、高齢化が進むかんきつ農業の維持・発展及び次世代の人材育成等を目指し、同地区内農家20名のうち16名の合意により、農事組合法人「楽蔵(らくぞう)」の設立総会を開催した。
- 今回の総会を受け、10月1日に法務局に登録申請する予定で、昨年9月に設立した伊方町の「農事組合法人笑柑園(しょうかんえん)ナカウラ」に次ぐ、県内2番目のかんきつ地帯での集落営農組織による農事組合法人となる。
- 同法人の設立に至っては、地域農業育成室が令和元年度に蔵貫集落農業者から集落営農の法人化について相談を受け、えひめ農林漁業振興機構の事業を活用し専門家のアドバイスを受けながら検討してきたもの。
- 当面は、農作業受託により地域内農地の維持を図ることとしており、当班では「西宇和地域柑橘集落営農支援事業」(局予算)や各種事業を活用し、法人の運営や経営を支援していくこととしている。



専門家を交えてのコンサル指導



設立総会で選任された農事組合法人楽蔵の役員

### ■「ひめの凩」のプレミアムクオリティ率向上に向けて

- 西予農業指導班は9月27日から30日にかけて、「ひめの凩」の安定した高品質生産を図るため、関係機関と連携して認定栽培者36名を巡回し技術資料配布とともに今後の管理について重点指導を行った。
- これは、消費者が求める良食味米「ひめの凩」を生産する上で、プレミアムクオリティ率の向上に取り組むために「刈取り・乾燥・調製のポイント」として作成した資料と生育状況に基づき、適期刈取りに向けた収穫適期の目安や乾燥・調製時の留意点について周知したもの。
- 当班では、「ひめの凩」の高品質産地の確立および栽培面積・生産者数増加のため今後も高品質・良食味米生産の指導強化を図る。  
※プレミアムクオリティとは、「ひめの凩」独自のおいしさ基準を満たした最高ランク(全3段階)のこと。

ひめの凩栽培環境のポイント資料 03007

ひめの凩の高品質生産に向けて  
～刈取り・乾燥・調製のポイント～

令和3年9月  
西予農業指導班

1 収穫通知基準(目安)

項目	ひめの凩
収穫開始日	37～43日
播種量(10a当り)	900～1,000g
安定播種量(10a当り)	571～607g
播種量変動率	80%以内(目標)
収穫時の水分率	25%

○令和3年度 ひめの凩の事業継続手続(予定日:9月27日)  
①栽培者: 生産者の1/3以上(認定栽培者) ②生産者: 10人以上

栽培者	生産者	生産者数	生産者名
1	2	3	4

作成した資料「刈取り・乾燥・調製のポイント」



生育状況を基に適期刈取指導

## 八幡浜支局 産地戦略推進室

### ■南予マルシェ出店者のおススメ商品をカタログ販売

- 南予地方局及び八幡浜支局の産地戦略推進室は、新型コロナの影響で販売機会を失った農産物の販売支援として、八幡浜市と宇和島市の商店街で毎月交互に「南予マルシェ」を開催しているが、8月以降の感染急拡大により8、9月の開催ができなくなったため、マルシェに出店している産直市や農業者等のおススメ商品をカタログで紹介し、庁内職員向けに販売するとともに、商店街の店舗や通行客にカタログを配布し購入を呼び掛けた。
- 商品カタログには、「遊子川ザ・リコピンズ」のトマトソース、内子町「HIMARIN O」の食べるオリーブオイル、「道の駅みま」の新米&米ドレッシング、松野町の「菓子工房KAZU」の梅シロップなど、旬の農産物や人気の加工品等を掲載。
- 一般客からは、「珍しい商品が多いですね」、商店街からは、「商店街の賑わい創出のためにも早期に出店を再開してほしい」などの声が聞かれた。
- 今後、新型コロナ感染防止対策の緩和状況に応じて、マルシェの再開を予定しており、両室では、引き続き農業者の所得向上と地域の活性化に繋がるよう支援していく。



一般客向けの商品カタログ



庁内販売向けのおススメ商品



商店街におけるカタログ配布

## ■南予の逸品を紹介！「冷蔵シャインマスカット」をPR

- 産地戦略推進室は9月14日、「南予の農産物販売促進事業」で実施している『南予の逸品発掘とPR』において、逸品の一つに選定した「冷蔵シャインマスカット」を紹介するため、委託事業者の(株) エス・ピー・シー 及びJA愛媛たいき担当者と内子町の園地を訪問し、取材のサポートとアドバイスを行った。
- この取組は、知名度は低い商品として魅力があり、特色のある農産物や加工品等をPRするもので、今回の「冷蔵シャインマスカット」を含む7品目について、メディアによる紹介や、商品のブラッシュアップ等を行うもの。
- 取材では、JA担当者と当室から品質重視の栽培方法、産地概要、「シャインマスカット」の来歴や冷蔵に取り組んだ経緯について説明した。
- 今回の内容は、「タウン情報まつやま」のWebサイトや、SNS、スマホアプリ「えひめのあぷり」等に「南予みらい逸品堂」として掲載されるほか、南予地方局農業振興課のfacebook「南予の農林水産物PRサポートチーム」にも掲載する。



レポーターがボリュームを実感



規格に合っているか房重をチェック

※冷蔵シャインマスカット：シャインマスカットは貯蔵性が良いことに着目し、平成28年から普及組織とJAが12月のクリスマス需要に向けた貯蔵方法を試行錯誤し、平成30年から本格出荷を開始。令和2年産の出荷量は0.9t。

## 農産園芸課 高度普及推進グループ

### ■県有数の観光施設で県育成品種「紅い雫」、「さくらひめ」の栽培実証がスタート

- 高度普及推進グループは、今治市のタオル美術館において、9月14日から県育成品種のいちご「紅い雫」、「あまおとめ」、デルフィニウム「さくらひめ」を定植し長期多収収穫を目指した栽培実証を開始した。
- 同実証は、同館が設置している環境制御型養液栽培ハウスを利用して行われるもので、収穫された「紅い雫」「あまおとめ」は同館内で青果やスイーツで提供されるとともに、「さくらひめ」は切り花、鉢物で販売されるなど、年間数十万人の県内外の来館者に県オリジナル品種がPRされる。
- 「紅い雫」「あまおとめ」の苗は、同館の冷房ハウスで育苗された苗が当グループの考案した新規規格栽培ベッドに定植されるとともに、同施設には当グループが開鎖型育苗施設で育苗したさくらひめの苗が定植されている。
- 同館では来年1月より屋外ガーデンにつながっている4階フロアが全面改装され、県産農産物を青果やスイーツで提供するカフェや来館者が果実等をスイーツに加工することができる体験コーナー等がオープンする。



「紅い雫」の定植及び養液管理に関する協議



「紅い雫」、「あまおとめ」栽培ハウス

## ■新規導入品目しょうがの収穫がスタート

- 高度普及推進グループは、高収益が期待できる新規品目として大洲市で栽培実証を行っている新しょうがの収穫を9月10日より開始した。
- 当グループは、同市内の農業法人と昨年より県産しょうがの年間供給体制を確立するため、排水性に優れる肱川河川敷の水田を利用し貯蔵用しょうがの生産に取り組んでおり、本年度からはハウス内で専用培地を用いた高設ベッドでの新しょうがの栽培実証に取り組んでいる。
- 本年度、高知をはじめとする全国の露地産地では、8月以降の長雨により根茎腐敗病等が多発しているものの、同市内の園地では根茎の腐敗はほとんど見られず、排水性に優れた園地の優位性が確認されている。
- また、ハウス内で専用培地を用いて取り組んでいる養液栽培では、限られた培地内でも露地栽培に比べ約2倍の高い収量性を確認するとともに、生産された根茎は味、風味もよく高い品質等が確認されている。
- 同法人では、普及組織先導型革新的技術導入事業を活用し、低コスト対候性ハウスを導入し、本格的な新しょうがの6 t取り栽培に取り組む予定で、当グループは、年内のハウス完成を目指して適正な業者選定等の事業執行やハウスの建設等を指導する。



露地栽培ほ場での収穫時期の検討



高設ベッドでのハウス培地栽培実証

## ■「さくらひめ」の需要期出荷に向けたリモート研修会を開催

- 高度普及推進グループは9月15日、花き普及指導員調査研究会をリモート形式で開催。若手普及指導員等23人が参加し、デルフィニウム「さくらひめ」の令和2年産の主要生産者の経営分析と需要期に向けた出荷対策について意見交換した。
- 各普及拠点からは、令和2年産は良好な天候だったにも関わらず需要期となる2月下旬～4月上旬の出荷量が少ないことが報告され、主な出荷時期が需要期より約1ヶ月以上遅延したことから多くの生産者で採花数が確保できず、目標とする収益が確保できていないことが報告された。
- また、当グループは、育苗期の高温による苗質の低下により、1番花の採花時期が1ヶ月以上遅延している事例や、愛媛大学や閉鎖型育苗施設を持つ農業法人の協力を得て取り組んだ育苗試験の様子を経時的に撮影した映像等で報告するとともに、研修会の様子や紹介した現地映像等は、当日参加できなかった職員や研究会員以外の職員も閲覧できるよう、リアルタイム農業普及ネットワーク内のデータベースに登録し配信している。
- 当グループでは、9月14日からは、松山市、西条市で令和3年産の閉鎖型育苗施設で生産した苗の定植を行いその生産性を確認する栽培実証を始めており、引き続き収益性を確保するための生産技術の確立を目指す。



育苗の現状と課題をまとめた報告資料

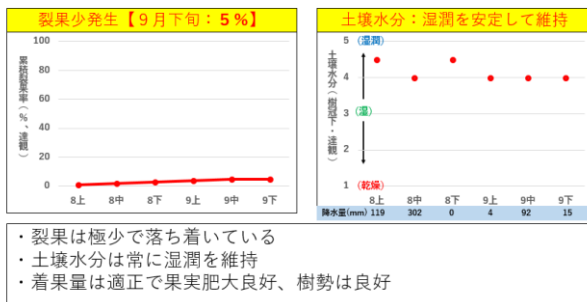


調査結果を動画で紹介(閉鎖型育苗施設)

## ■「甘平」裂果対策の実証経過について普及拠点へのリモート配信を開始

- 高度普及推進グループは、県下の甘平の裂果発生や各普及拠点が取り組む実証の状況を県下の普及職員が共有できるよう現地映像の配信を開始した。
- 現地映像の配信は、当グループが撮影した県下の各園地の映像等をリアルタイム農業普及指導ネットワークシステムのデータベースに登録し、各普及拠点での閲覧を可能とするもの。
- 配信した映像では、生育期間を通して十分なかん水を実施し根域がある下層域の土壤水分を湿潤に保った園地では、裂果の発生は5%以下と少なく推移している様子を紹介しており、裂果対策におけるかん水の有効性等を説明している。
- また、映像ではかん水不足により土壌が一時的に乾燥した園地でも、裂果は例年より少なくなっていることが紹介されており、当グループが先月の普及指導員果樹調査研究会で予測したように、8月の長雨等により裂果が少なくなっていることを映像と資料で紹介している。
- 今後、当グループは、引き続き県下の園地の状況を映像データに取りまとめ、随時、リモート配信する予定で、コロナ禍で検討会等の開催が制限される中、同ネットワークシステムのデータベース機能を活用し、職員なら誰でもリアルタイムで県下の状況を確認できる環境を整えることにより、裂果対策の効果的な推進と普及指導員の資質向上を支援する。

伊方町仁田之浜：屋根かけハウス、ピン+点滴かん水



配信した資料（裂果と土壤水分の推移）



配信した現地映像（優良園の状況）

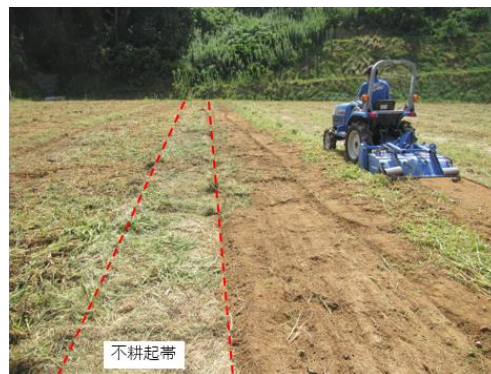


## ■かんきつ基盤整備ほ場における緑肥作物の生育確認とほ場へのすき込みを実施

- 高度普及推進グループは9月21日、松山市下難波地区の基盤整備ほ場の土壌改良及び土壌流亡対策のために実証栽培しているソルゴーの生育を調査するとともに、緑肥としてのすき込み作業を行った。
- これまでの調査では、整備前の表土が残り肥沃な土壌となっている部分と切り土が多く花崗岩母材主体の土壌となっている部分において、ソルゴーの生育に大きな差があることが確認されている。
- 今回の調査では、ソルゴーを7月に播種しても適度な降雨と地力に応じた施肥があれば地力の劣る部分においても播種後2か月程で十分に生育すること等を確認した。
- なお、今後の土壌流亡を防ぐため、すき込みは等高線状に不耕起帯を設けて地表3cmで刈り取ったソルゴーの基部や根をそのまま残しており、その他の部分は土壌改良資材と混和しながらすき込みを行っている。
- 当グループでは、引き続き基盤整備園地における緑肥作物の栽培による土壌改良や土壌流亡対策技術を検証するとともに、土壌改良資材を効率的に利用した土壌改良方法等を検討する。



7月播種ソルゴーの生育状況



不耕起帯は幅2m、15m間隔に設置

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543